

景観への取り組み!

川内川激甚災害対策特別緊急事業 「曾木の滝分水路」

●「曾木の滝分水路景観検討会」を開催

(構成:学識者、伊佐市長、鹿児島県、地域代表者 計13名 事務局:川内川河川事務所)

- ・第1回検討会・・・H19. 7.20 現状及び計画概要の説明と意見聴取
- ・第2回検討会・・・H19.10.31 分水路景観・利活用の具体的検討
- ・第3回検討会・・・H20. 3.18 検討会意見を基にした形状案の提示・決定
- ・第4回検討会・・・H22. 3.11 分水路景観整備イメージの確認
- ・第5回検討会・・・H23. 2.28 検討会の総括、今後の方向性に関する報告

曾木の滝分水路は、曾木の滝の左岸側に新たに洪水を流す水路を創り、平成18年7月洪水において甚大な被害を被った上流域の洪水被害を低減させるものです。

激特事業の工期は概ね5ヶ年とされており、平成22年度末の完成を目標に事業推進に努めています。



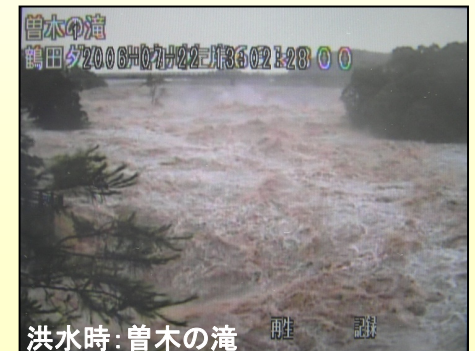
曾木の滝分水路諸元
 延長 約400m
 平均河床幅 約30m
 分流量 約200m³/s

(平成23年3月時点)

曾木の滝は「東洋のナイアガラ」と称され、年間30万人の観光客が訪れる地域の観光拠点でもあるため、特に景観に配慮して計画しました。



平常時:曾木の滝



洪水時:曾木の滝

再生 記録

事業全体のコンセプト

景勝地曾木の滝や周辺景観と調和し、平常時の利活用や地域の活性化につながる観光資源としての分水路整備を目指します。

1. 曾木の滝公園から見た景観への配慮

→曾木の滝と分水路を一体的に考え、対岸からの景観、掘削後の切土面景観を配慮

2. 分水路内から見た線形への配慮

→自然な川の形状となるよう3次的に、分水路線形を検討

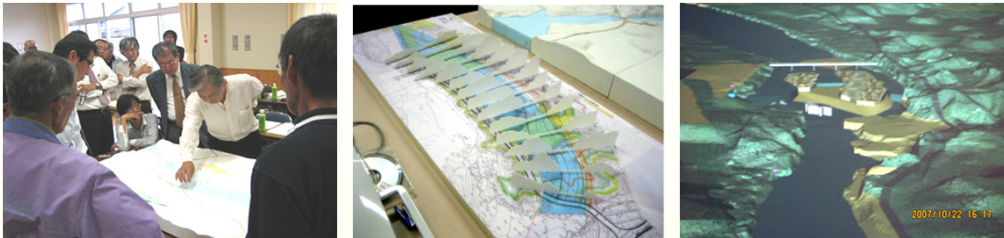
3. 川の中のアメニティーに配慮

→平常時の親水性や散策を考慮した回遊性等を検討

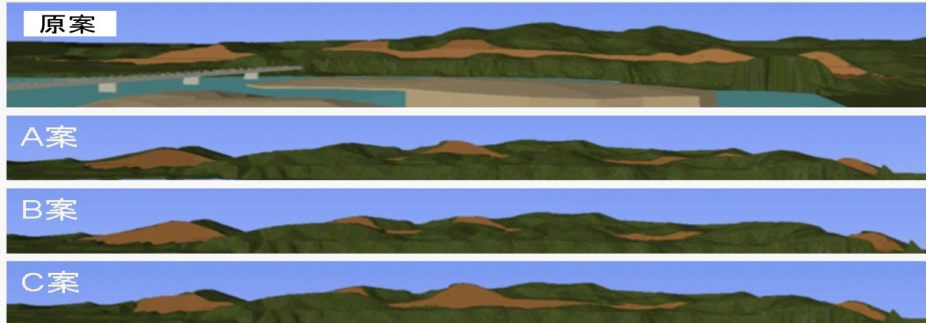
【設計段階における具体的な検討内容】

イメージ図、景観検討模型、3Dアニメーション等を制作

①1/1000模型と3D-CADにより、各視点場及び導線等の検討



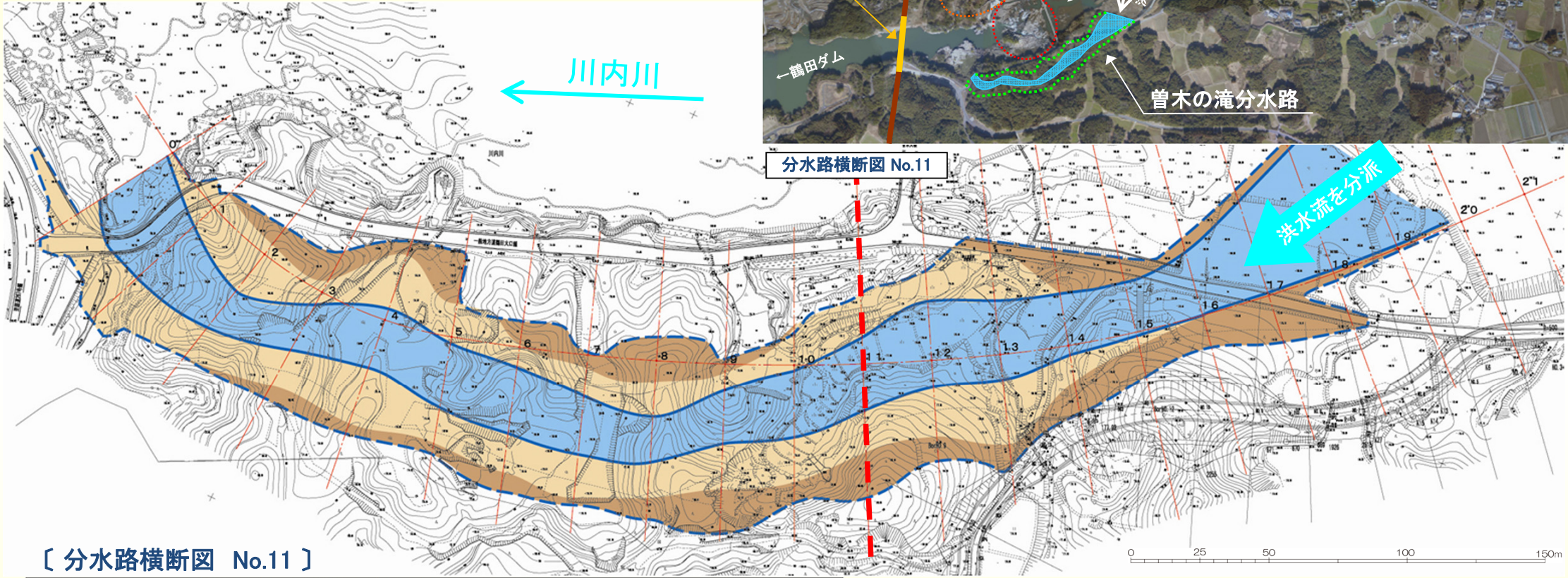
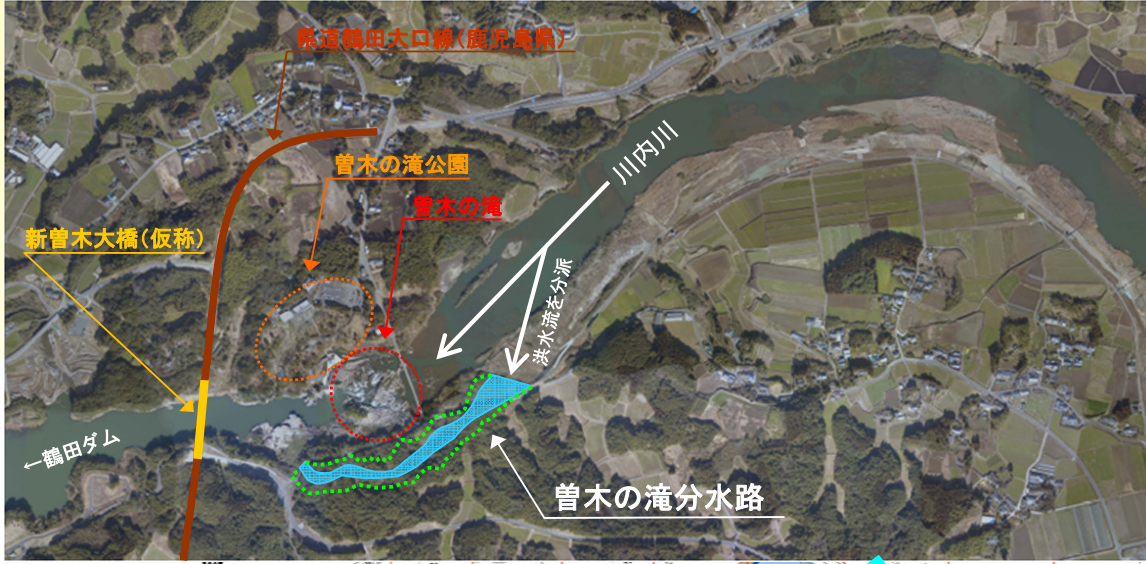
②対岸からの切り土面の見え方や、平常時の親水性(散策を考慮した回遊性)などを検討



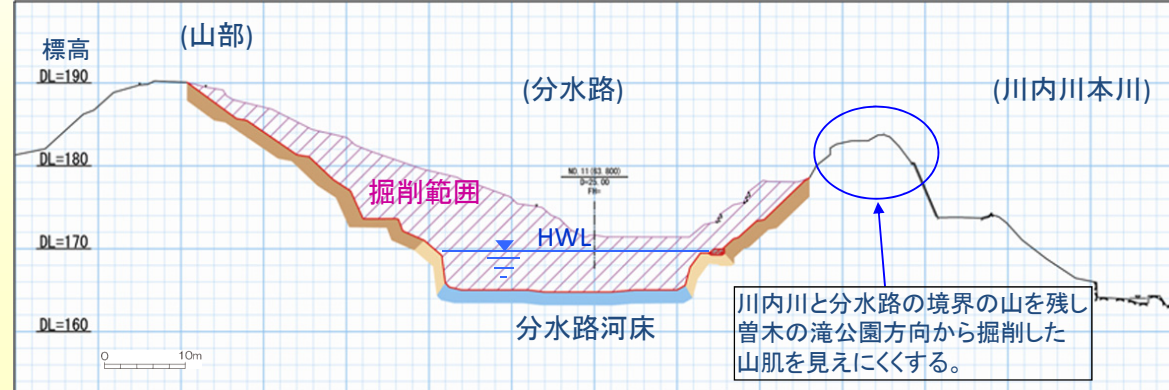
● 「曾木の滝分水路」 ～事業実施中～

水害の軽減に向けて！！

曾木の滝上流で洪水流を分派させ上流域の水位低下を図り、平成18年7月洪水をより安全に流下させます。



〔 分水路横断図 No.11 〕



- 事業期間
平成20年10月 ～ 平成23年3月までの約3ヶ年を予定しています。
- 事業量
土砂掘削 約 9万m³
岩掘削 約 16万m³
計 約 25万m³
- コスト削減対策及び資源の有効活用
掘削土砂については、築堤材料として使用するほか、岩についてはさつま町宮之城地域の自然石護岸の材料として使用しています。